

現代日本学プログラムでの日本語学習
—現代日本学プログラムの学生の日本語学習経験・感想—

1. 日本学習

グローバル化が進み、世界の国々が文化的・政治的交流を通じてさらにつながりを深めていくなか、第二外国語を学ぶことは国際人として貴重なスキルとなっている。外務省のウェブサイト「文化の交流『日本語教育』」ページによると、2021年に海外で日本語を学んでいる外国人は約379万人であった〔外務省, 2024〕。

そして日本学生支援機構（JASSO）留学生調査回答によると、同年に日本にある日本語学校で日本語を学習していた外国人留学生は24万2444人であった。この人数はCOVID-19の影響でわずかに減少したが、過去10年で見ると大幅に増加していることがわかる〔Japan Student Services Organisation, 2023〕。

外国語を学ぶ際、大きく分けて「直接法」（ダイレクト・メソッド）と「文法訳読法」の2つの方法がある。「直接法」（ダイレクト・メソッド）とは、媒介語を使わずに、目標言語で目標言語を学ぶ方法である。「文法訳読法」とは、目標言語のテキストを母語に翻訳、または母語から目標言語に翻訳する言語の学び方である。直接法の利点は、授業で聞く力と話す力が主であるため、この2つの能力が急速に高めることができるとされている。また、先生やクラスメイトからのインプット、及びアウトプットも目標言語で行われ、学習者は目標言語にすぐ慣れるとされている。

一方、直接法のデメリットは、学習者のレベルが低い場合、理解できず授業についていけないこともある。その上、学習者が授業を理解できないため、質問も出せず、先生は学習者のレベルを把握しにくくなるとも言える。さらに、聞く力と話す力が主になり、逆に読む力と書く力の向上につながらないことがある〔旅する応用言語学, 2021〕。

独立行政法人国際交流基金（以下、JF）のウェブサイトのホームページによると、JFは、「世界の全地域で総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関（である）。「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場を作り、人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいく。」機関である〔国際交流基金, 2024〕。

JFは日本語教育スタンダード（JFスタンダード）を公開した。JFスタンダードは、日本語での「やりとり」、「表現」と「理解」の3つの能力視点から日本語力の評価を考えるための枠組みである〔独立行政法人国際交流基金, 2018〕。

北海道大学現代日本学プログラム（以下、現プロ）は、半年間の日本語集中教育プログラム（予備課程）と4年間の学士課程で構成されている。現プロの日本語の授業は対面で直接法で行われている。現プロ生にとっての目標の1つは、4年次までに日本語能力試験のN1に合格するこ

とである。また、3年次以降、歴史・文化モジュールあるいは社会・制度モジュールの授業を日本語で履修する〔現代日本学プログラム課程，2024〕。

現プロ生が受講可能な日本語科目は、中級1-3レベル・上級レベルのやりとり・表現・理解の3種の科目があり、やりとり・表現・理解の単位を修得すると一つ上のレベルのクラスが受講できる。

現プロ生は多様な文化やアカデミック背景を持ち、年齢や人生経験も様々であるため、同じプログラムをしているにもかかわらず、日本語学習経験は様々である。現プロ生を対象とし、日本語学習者は日本語学習についてどのように思うか、また、現プロ生の動機や動機がどのように変化してきたかを明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

以上の目的を達成すべく、アンケートとインタビューを現プロ生1-3年次に実施した。現プロで行う日本語学習について、以下の質問項目を設けた。

- 自分の日本語レベルは期待していたレベルになっているか、そしてそれで満足しているか
- どのような日本語を目指しているか
- 日本語を話せることは生活・将来役立つと思っているか
- 日本語学習を楽しんでいるか
- 自分が判断する日本語力はどのレベルか
- 性格や自分らしさを日本語で表現できるか

以上の質問項目以外にも、他の質問もアンケートで実施した。

アンケート実施後、インタビューを実施した。インタビューの場合は、アンケートで回答されたコメントについて追加質問を出し、アンケートの回答についてより詳しく聞き取り調査を実施した。

アンケート及びインタビューで集めたデータは自己の日本語レベル・状況の意識と変化、学習者としての悩みや日本語学習方法の効果などをわかるために分析していく。できるだけ回答者の間の日本語力を客観的に比較することを可能にすべく、前述のJFスタンダードを使用し、回答者に評価してもらう方法を採用した。

3. アンケート調査結果

18人の現プロ生から回答が得られた。18人の内訳は、1年次7人、2年次7人、3年次4人であった。

〈現在、自分の日本語レベルは期待していたレベルになりましたか〉という質問に対し、6人が「自分が思っていたより下のレベルになった」または「自分が思っていたよりかなり下のレベルになった」と回答した（図1）。

さらに、回答者のうち、〈現在の日本語レベルに満足していますか〉という追加質問に対し、12人が「不満」または「非常に不満」と回答し、「満足」と答えた現プロ生が1人。残りの4人の回答は「どちらでもない」であった（図2）。

〈現在、自分の日本語レベルは期待していたレベルになりましたか〉に対し「自分が思っていたより上のレベルになった」と回答した現プロ生は2人だったが、この学習者はそれに対し、「満足している」あるいは「非常に満足」と答えていないことは注目に値すると言える。

図1と2でわかることは、アンケートに答えた現プロ生は、学年や実際の日本語力にかかわらず、自分の日本語レベルを判断し、それに対してどう思うかを評価できると考えられる。

図 1

Is your current level of Japanese ability at the level that you expected it to be at this stage of your life and studies? 現在、自分の日本語レベルは期待していたレベルになりましたか
18 件の回答



図 2

Are you satisfied with this level? 現在の日本語レベルに満足していますか

18 件の回答

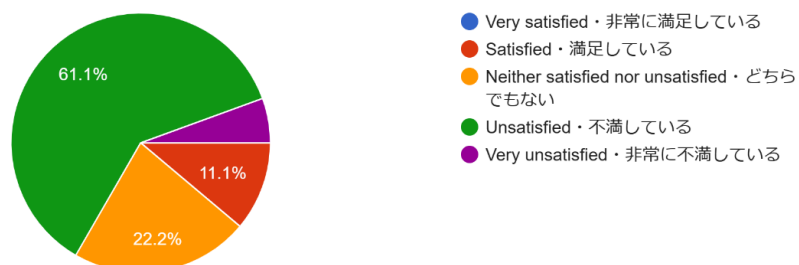


図3は予備課程に入る前に関し、学習者は性格や自分らしさを日本語で表現できたかに対しての回答を表し、図4は同じ期間において日本語学習を楽しんでいたかに対しての回答を表す。

図 3

Were you able to express yourself and personality in Japanese? 自分の性格や自分らしさを日本語で表現できましたか

18 responses

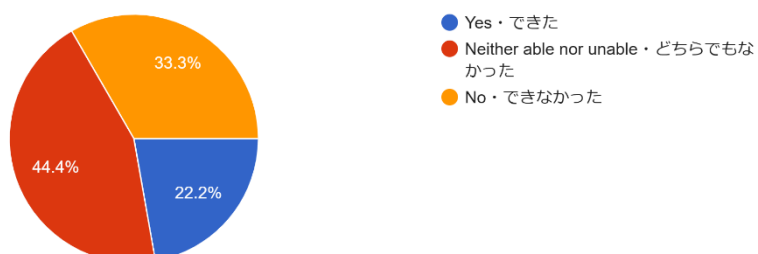


図 4

Were you able to express yourself and personality in Japanese? 自分の性格や自分らしさを日本語で表現できましたか
18 responses

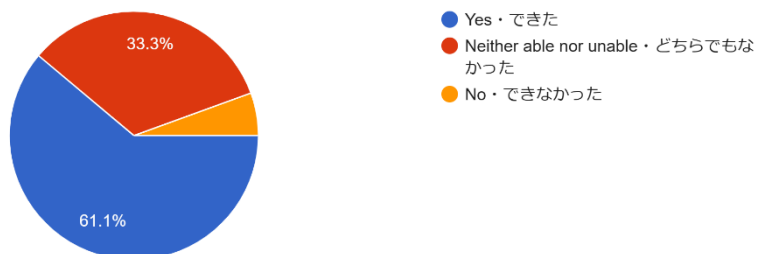


図 5

Did you feel that learning Japanese was enjoyable? 日本語学習を楽しんでいましたか
18 responses

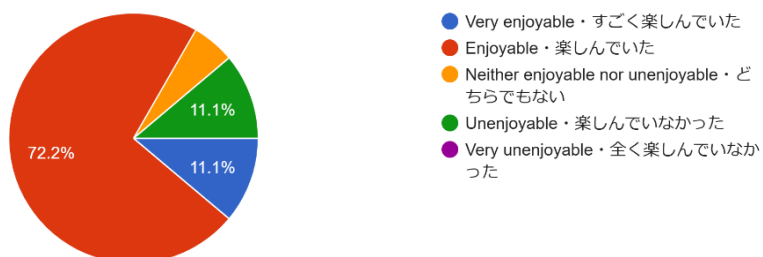


図 6

Did you feel that learning Japanese was enjoyable? 日本語学習を楽しんでいましたか
18 responses

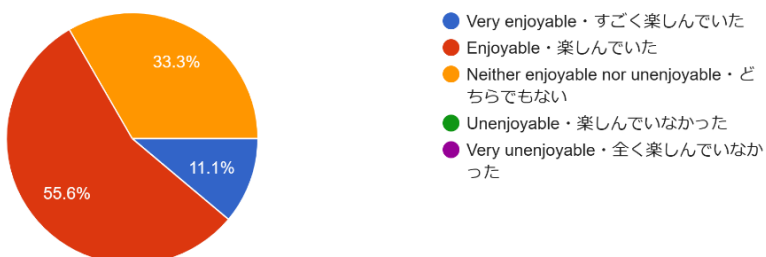


図3・4と同じ質問と回答複数選択肢を表すが、回答者は現プロ1年次に関する。学習者が性格や自分らしさを日本語で表現できたかと日本語学習を楽しんでいたかには、直接関係があると

か考えられるが、実は性格や自分らしさを日本語で表現できるようになったにもかかわらず、日本語の学習を必ず楽しんでいるとは限らないようである。

回答変化を見て認められるのは、現プロの年次が進むにつれて、学習者が判断する自分の日本語力が上がっていると言える。しかし、現プロ生は毎学期複数の日本語授業を受ける必要があるため、これは当然のことである。

また、現プロ生が予備課程の前の自分の判断した日本語力は様々であったが（図7）、1年次の途中で判断したレベルは主にJFスタンダードの「B1」だったことがわかる（図8）。同じように、2・3年次が2年次の途中で判断したレベルは「B2」に上がり（図9）、3年次も日本語力はさらに「C1」まで上がったという回答が多かった（図10）。

図 7

What level of Japanese do you assess yourself to have been? Please use the grading scale below. 自分が判断する日本語力はどのレベルでしたか 下の表を参考にお答えください

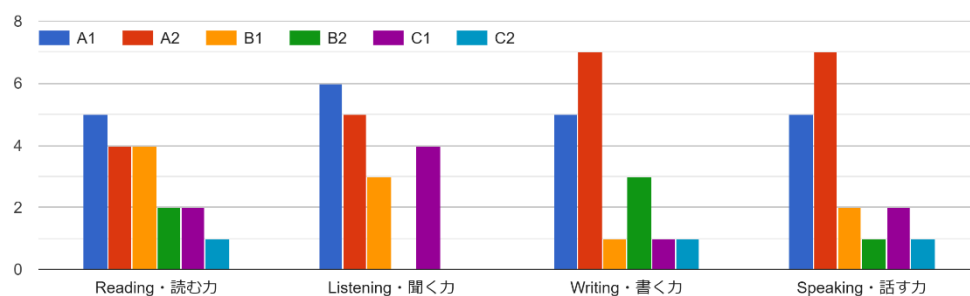


図 8

What level of Japanese do you assess yourself to have been? Please use the grading scale below. 自分が判断する日本語力はどのレベルでしたか 下の表を参考にお答えください

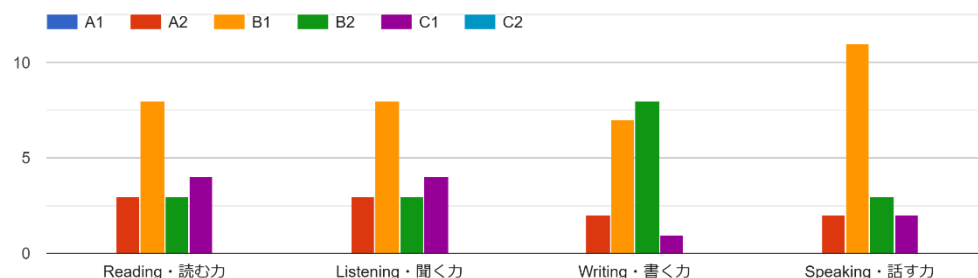


図 9

What level of Japanese do you assess yourself to have been? Please use the grading scale below. 自分が判断する日本語力はどのレベルでしたか 下の表を参考にお答えください

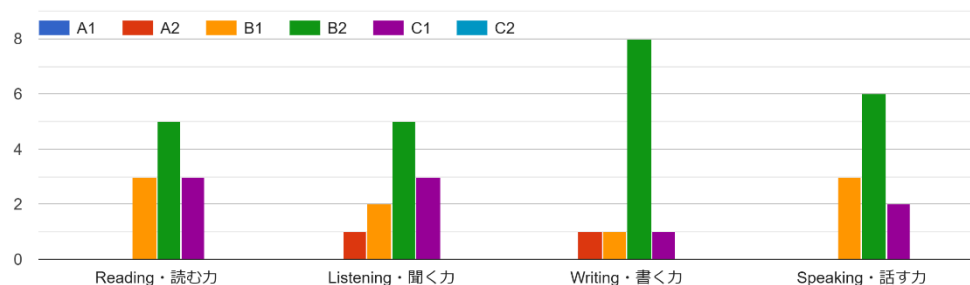
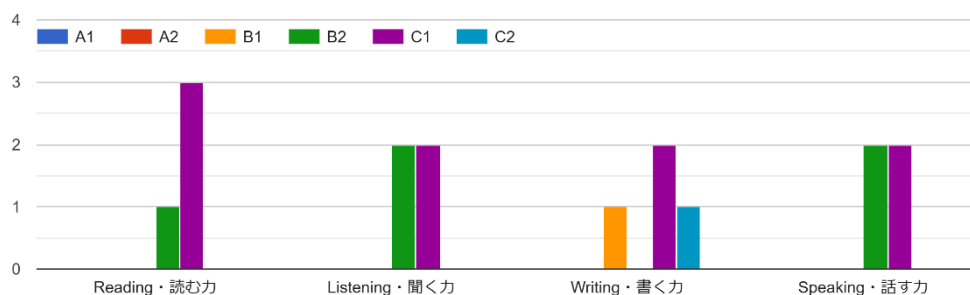


図 10

What level of Japanese do you assess yourself to be? Please use the grading scale below. 自分が判断する日本語力はどのレベルですか 下の表を参考にお答えください



4. インタビュー調査結果

アンケート回答収集後、日本語学習に関して強い感情を持つ二人のアンケート回答者にインタビューを実施した。1年次1人、2年次1人である。自己評価に対し、二人は自分の日本語力に不満である上、自分の能力を判断することも難しい・複雑だと答えた。

日本語授業の難しさに対し二人は同じような感想を持ち、内容の難しさ・量に関して不満であった。日本語レベルは上がっているにもかかわらず、期待していたレベルには到達していないと答えた。しかし、アンケート回答者が自己評価したレベルは全体として、毎年上がっていたことが図7-10からわかる。

今回のアンケートとインタビューによる調査の結果、下記のことが明らかになった。

- 現プロ生は学年が上がるにつれて、自己評価する日本語力は徐々に上がっている。
- 日本語で自身の性格や自分らしさを表現できる日本語力があるにもかかわらず、自身の日本語力に対する満足度は高くない。
- 日本語で自身の性格や自分らしさを表現できる日本語力があるにもかかわらず、日本語学習への楽しさにはつながっておらず、日本語学習を楽しんでいると回答した学生は減っていく。

以上のことから、現プロの年次進行につれ、日本語学習に対する学習者の感情はネガティブになっていると考えられる。このことから推定すると、4年次に進み、学習者が自己評価する日本語力と性格や自分らしさを表現できる学習者の数は増加し、日本語学習に満足し日本語学習を楽しむ学習者の数は減少していくことが予想できる。

5. 今後の課題

全体として、アンケートとインタビューは効果的に作られておらず、日本語学習と現プロ生の回答の特徴やパターンについて有意な相関関係を得ることができなかった。つまり、アンケートでは変数が多すぎた上、非決定的な質問項目があった。

もし先行研究で、回答者が自己評価した日本語力と日本語で性格や自分らしさを表現できるかが直接関係していることがあったら、アンケートのデータから結論を得られた可能性があると考えられる。しかし、研究目標があいまいすぎて、質問項目で得られたデータが先行研究と十分につながっていなかったため、効果的な調査には至らなかった。

さらに、インタビューも同じく、準備不足に実施された。インタビューがカジュアルすぎたため、自然な流れで学習者の回答を集めたが、分類しづらいデータを得ることとなった。インタビュー実施前にインタビューの基本的な構造を作り、それに従い、すべての回答者に同じ質問項目を出す必要があった。以上のことを参考にし、今後の研究を行っていきたい。

(文字数：4092字)

参考文献

Japan Student Services Organisation. (2023, March). *Result of International Student Survey in Japan, 2022*. Retrieved from Study in Japan:
https://www.studyinJapan.go.jp/en/_mt/2023/05/date2022z_e.pdf

(2024/12/6最終閲覧)

国際交流基金. (2024). *国際交流基金ホーム*. Retrieved from 国際交流基金:
<https://www.jpf.go.jp/>

(2024/12/6最終閲覧)

外務省. (2024, July 25). 文化の交流・日本語教育. Retrieved from 外務省:
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/koryu/edu/index.html>

(2024/12/6最終閲覧)

旅する応用言語学. (2021, December 23). 直接法 (*Direct Method*) の特徴、メリット、問題点について. Retrieved from 旅する応用言語学:
<https://www.nihongo-appliedlinguistics.net/wp/archives/9412>

(2024/12/7最終閲覧)

独立行政法人国際交流基金. (2018). レベル別サンプル. Retrieved from JF日本語教育スタンダード: <https://www.jfstandard.jp/sample/ja/render.do>

(2024/12/6最終閲覧)

現代日本学プログラム課程. (2024). Retrieved from Modern Japanese Studies Program:
<https://www.oia.hokudai.ac.jp/mjsp/japanese/>

(2024/12/6最終閲覧)